

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-296330
(P2005-296330A)

(43) 公開日 平成17年10月27日(2005.10.27)

(51) Int. Cl.⁷
A63B 57/00

F I
A 6 3 B 57/00 A

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 5 頁)

<p>(21) 出願番号 特願2004-116889 (P2004-116889) (22) 出願日 平成16年4月12日 (2004. 4. 12)</p>	<p>(71) 出願人 391047488 ライト株式会社 東京都北区中里2-28-12 (74) 代理人 100082304 弁理士 竹本 松司 (74) 代理人 100088351 弁理士 杉山 秀雄 (74) 代理人 100093425 弁理士 湯田 浩一 (74) 代理人 100102495 弁理士 魚住 高博 (72) 発明者 水越 乙彦 東京都北区中里2-28-12</p>
-------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

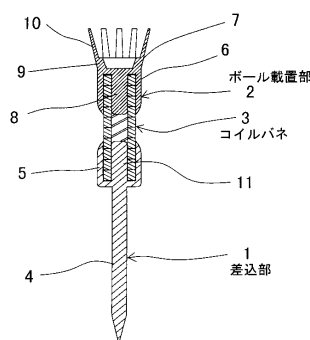
(54) 【発明の名称】 ゴルフティ

(57) 【要約】

【課題】 ゴルフボールを打ったときの衝撃を吸収して破損や紛失を防ぎ、積み重なったコイルバネの接触面積が広いため、左右にずれにくくて、支持されるゴルフボールの位置ずれを防ぐことができ、すっきりした外観のゴルフティを提供すること。

【解決手段】 下端が先鋭状に形成された差込部1と、頂部に設けられたボール載置部2とをコイルバネ3で連結して成り、コイルバネ3は角形断面を有し、コイルバネ3の上下に積み重なった各段どうしが面接触している。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

下端が先鋭状に形成された差込部と、頂部に設けられたボール載置部とをコイルバネで連結して成り、前記コイルバネは角形断面を有し、該コイルバネの上下に積み重なった各段どうしが面接触していることを特徴としたゴルフティ。

【請求項 2】

前記差込部の上端部に、上端面が開口した筒状頭部を形成し、前記ボール載置部の下端部に、下端面が開口した筒状支持部を形成し、前記コイルバネの両端部を、それぞれ前記筒状頭部及び筒状支持部に挿入して固定した請求項 1 に記載のゴルフティ。

【発明の詳細な説明】

10

【技術分野】

【0001】

本発明は、ゴルフティに関する。

【背景技術】

【0002】

一般的に使用されていたゴルフティは、木、プラスチック等を素材として、先細の差込部とボール支持台とが一体に形成されていた。

このようなゴルフティは、硬質素材を用いているため、ゴルフクラブでゴルフボールを打った時に、クラブヘッドが当たった衝撃で変形したり、折れたり、或いは、遠くへはじき飛ばされて紛失することが多い。

20

【0003】

そこで、従来、クラブヘッドが衝突した衝撃を吸収し、破損や紛失を防ぐことができるゴルフティとして、1本の鋼鉄線をコイルバネ状に折り曲げて、皿状の載置部と、胴部と、埋設部とを連続して形成したスプリング式ゴルフティが提案されている（特許文献 1 参照）。

しかし、通常の鋼鉄線は断面が円形であるため、上下に重なったスプリングの各段が互いに線接触し、接触面積が非常に小さいので、不安定で左右にずれやすく、このため、ゴルフボールが位置ずれしやすい。また、地面に差し込む時及び引き抜く時にコイルバネを持つことになるので、外力によってコイルバネが変形しやすいという欠点がある。

【0004】

30

さらに、埋設部とボール支持部とをコイルバネ連結すると共に、埋設部とボール支持部とを凹凸嵌合したゴルフティが知られている（特許文献 2 及び特許文献 3 参照）。

このゴルフティでは、埋設部とボール支持部とが凹凸嵌合によって正確な位置に位置決めされているので、ゴルフボールが安定して支持され、位置ずれしにくい。

しかし、ゴルフボールを打って、ボール支持部が埋設部から外れると、その都度、人手によってボール支持部と埋設部とを嵌合し直さなければならず、この作業が非常に面倒である。

【0005】

【特許文献 1】実開昭 59 - 164669 号公報

【特許文献 2】実公昭 60 - 31748 号公報

40

【特許文献 3】実公昭 62 - 32065 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

本発明が解決しようとする課題は、ゴルフボールを打ったときの衝撃を吸収して、破損や紛失を防ぎ、打撃後はボール載置部が差込部に対して自動的に元の位置に復帰し、積み重なったコイルバネの各段どうしの接触面積が広いため、左右にずれにくくて、ゴルフボールの位置ずれを防ぐことができ、すっきりした外観のゴルフティを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

50

【0007】

本発明のゴルフティは、下端が先鋭状に形成された差込部と、頂部に設けられたボール載置部とをコイルバネで連結して成り、前記コイルバネは角形断面を有し、コイルバネの上下に積み重なった各段どうしが面接触している。

前記差込部の上端部に、上端面が開口した筒状頭部を形成し、前記ボール載置部の下端部に、下端面が開口した筒状支持部を形成し、前記コイルバネの両端部を、それぞれ前記筒状頭部及び筒状支持部に挿入して固定しても良い。

【発明の効果】

【0008】

請求項1に係る発明によれば、ボール載置部に載置されたゴルフボールをゴルフクラブで打つと、コイルバネが撓んでその衝撃を吸収するので、破損したり遠くへ飛んで紛失するのを防ぐことができ、ゴルフボールを打った衝撃でボール載置部の位置がずれても、コイルバネの復元力で、自動的に元の位置に復帰する。

また、コイルバネの積み重なった各段は面接触しているため、接触面積が広くて左右に位置ずれしにくく、この結果、ゴルフボールを正しい位置に安定して支持することができる。

さらに、コイルバネは、断面円形のコードを巻いたものに比べて、外面の凹凸が少なく平滑になるため、外観がすっきりする。

【0009】

請求項2に係る発明によれば、衝撃吸収力の高い比較的長いコイルバネで差込部とボール載置部とを連結しても、左右にぐらつきにくいため、いっそう安定してゴルフボールを支持することが可能となる。

また、常態においては、差込部を地面に差し込んだり引き抜く際に、筒状頭部を持つことができ、コイルバネに外力が加わらないので、正確な方向に差し込むことができると共に、長期間使用してもコイルバネが変形しにくい。

【発明を実施するための最良の形態】

【0010】

以下、本発明の実施例を図面に基づいて詳細に説明する。

図1及び図2に示すように、本発明のゴルフティは、差込部1とボール載置部2とをコイルバネ3で連結して成る。

差込部1は、合成樹脂、金属等を素材とし、下端が先鋭状のピン体4と、ピン体4の上端に一体に形成された筒状頭部5とを備える。筒状頭部5は、ピン体4より径大で、上端面が開口した円筒体より成り、ピン体4と中心軸を共有するよう形成されている。

また、筒状頭部5の上端（開口底面）中心から上方に向かって、中心軸に沿う下部突起11が一体に突設されている。

【0011】

ボール載置部2は、合成樹脂、金属等を素材とし、筒状支持部6と、ボール支持台7とを備える。

筒状支持部6は、筒状頭部5と同径で下端面が開口した円筒体より成り、その下面（開口天面）中心から下方に向かって、中心軸に沿う上部突起8が一体に形成されている。

ボール支持台7は、ボール載置部2と一体に形成され、環状部9の上端縁に多数の支持片10を設けて成る。

支持片10は、上部が径方向外方へ傾斜しており、上部が下部よりやや細く形成され、環状部9の周方向に等間隔で立設されている。即ち、環状に配置された支持片10によって、上方へラップ状に開いたボール受け部分が形成される。

【0012】

コイルバネ3は、合成樹脂製で断面角形のコードを螺旋状に巻いたものであり、その外径は筒状頭部5及び筒状支持部6の内径よりもやや小さく形成されている。

また、コイルバネ3は角形断面を有するので、コイルバネ3の上下に積み重なった各段どうしは、広い面積で面接触している。従って、コイルバネ3の外面は、円形断面のコー

10

20

30

40

50

ドを巻いたコイルバネに比べて平滑になり、外観がすっきりする。

さらに、コイルバネ 3 の両端部は、それぞれ筒状頭部 5 及び筒状支持部 6 内へ挿入されて、下部突起 1 1 及び上部突起 8 の外周に嵌合されて固定されている。

【 0 0 1 3 】

このゴルフティを使用する際は、筒状頭部 5 を持って差込部 1 を地面へ差し込み、ボール載置部 2 の上にゴルフボールを載せる。ボール載置部 2 上に支持されたゴルフボールをゴルフクラブで打つと、ゴルフクラブが当たった衝撃でコイルバネ 3 が撓み、ボール載置部 2 が移動する。

しかし、外力が消失すると、コイルバネ 3 の復元力によってボール載置部 2 は、自動的に差込部 1 の直上である元の位置に復帰する。

また、ゴルフティを引き抜く際も、筒状頭部 5 を持てば、コイルバネ 3 に外力が加わることはない。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 4 】

【 図 1 】 本発明の実施例を示すゴルフティの側面図。

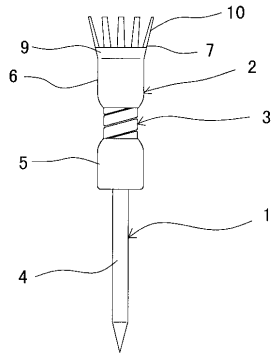
【 図 2 】 本発明の実施例を示すゴルフティの要部断面図。

【 符号の説明 】

【 0 0 1 5 】

- 1 差込部
- 2 ボール載置部
- 3 コイルバネ
- 4 ピン体
- 5 筒状頭部
- 6 筒状支持部
- 7 ボール支持台
- 8 上部突起
- 9 環状部
- 1 0 支持片
- 1 1 下部突起

【 図 1 】



【 図 2 】

